

◆研修会特集◆

当院における看護研究支援と臨床研修医支援

石井 恵

Key Words : 看護研究、臨床研修、教育支援、文献検索、利用者教育

I. はじめに

群馬県済生会前橋病院（以下、当院）では利用者支援の一環として、臨床研修医への支援を2008年から、看護研究支援を2011年より行っている。

本稿では当院が実施している各支援について、具体的な支援内容を基に事例を報告する。

II. 看護研究の支援

1. 当院における看護研究の流れ

看護研究は看護教育委員会が主催となり、当院のがん看護専門看護師（CNS）が講師を務めている。

毎年5月より開始となり、8月頃までに看護研究計画書を作成、2月までに分析・まとめとし、研究成果を発表する「院内看護研究発表会」が行われる。3月に看護研究集録が作成され、研究の区切りとなる。

5月中旬にその年の看護研究メンバーが集まり、研究についての指導と検索講習が行われるが、この検索講習を司書が受け持っている。

2. 看護研究向け検索講習の経緯

講習を行う前は、資料の取り寄せ（複写）やレファレンスは行っていたが、検索講習は図書室に来て、わからないという申し出があった場合のみ個別に行っていた。

2011年に看護教育委員長と講師から、看護研究メンバー全員に向け、図書室の利用方法や基本的な文献検索の方法、また文献複写取り寄せについて説明するよう依頼があり開始となった。

3. 検索講習内容

研究指導初回は二部構成となっており、前半は講師より看護研究のすすめ方の指導が行われ、図書室は後半の文献検索講習を担当している。

講習時間は30分間で、一次資料・二次資料および論文種類の説明を行い、その後、検索方法の基礎を説明している。2013年度まではJDream IIを、2014年度は医中誌 Web を使用し検索講習を行っている。

検索内容については、ログイン方法から基礎の検索の仕方、絞り込み方法、キーワード採択方法等を説明している。キーワード入力に関しては、探したい内容を紙に書き出し、長文の場合は単語分けをし、そこからキー

ISHI Megumi

群馬県済生会前橋病院

ワードを採択、重要キーワードごとに順位を決め、キーワードを組み合わせで検索をするというアドバイスをしている。

その他、文献複写取り寄せの流れや依頼方法を説明している。依頼時の注意として、時間に余裕を持って依頼をすること、頼みたい資料を明確にすること、複写の取り寄せは他機関の厚意によって成り立っていることを伝えている。著作権についての説明も行い、研究の際に著作権について意識を持っていただくよう喚起している。

配布資料として、LibraryNAVIを使用した図書室案内と医中誌 Web ポケットマニュアルを作成した。また、講習の中で良く質問に上がる原著論文と抄録の違いについて、わかりやすいように見本を資料として配布している。

なお、文献検索の必要性については講師から、研究チームが探している研究テーマに関して、先行研究の足取りや、どのような研究方法が主流でその効果はどう評価されているかを調べるためであり、また自分たちがなぜ今回そのテーマに着眼したのか、資料を根拠に説明するためにも文献検索は必要であると伝えてくれている。



4. その他の研究支援

(1) 講師のバックアップ

講師が必要とする資料を提供するほか、講師が来室した際に、どのチームがどのようなテーマで検索をしているかという話をし、講師が研究チームを気かけられるようにしている。

(2) 研究チームの個別指導

図書室にて検索を行っているときにわからないことがあれば検索のヒントを伝える。また、CiNii やメディカルオンライン、JDream III といった他のデータベースの使用方法などの指導も行う。

(3) ダブル検索

研究チームが検索した同テーマの文献を司書が検索し補完することで、より多くの参考文献が見つかる。

(4) テーマ把握と継続した資料収集

各チームがどのようなテーマで研究に取り組んでいるかを把握し、テーマに関連した有用な資料があれば情報を提供する。

(5) 研究に関連したレファレンス

語句やアセスメントツール等についてのレファレンスを行っている。

(6) データ分析・統計手法の資料提供

統計の HowTo 本や、看護研究の基礎の資料の貸出を行っている。

(7) 文献複写取り寄せおよび近隣大学図書館の所蔵確認・閲覧依頼

文献複写取り寄せのほか、自身で近隣の大学図書館に来館して資料を探したいという申し出があれば、所蔵確認とその施設への閲覧依頼を行っている。

(8) 購入書籍斡旋、近隣書店在庫確認

個人で資料を購入したいと希望する研究チームに、図書室経由で本を発注したり、近

隣書店の在庫状況を確認する。

(9) 文献複写取り寄せ費用の領収書を発行
当院では看護研究にかかった費用は看護部の公費となるため、相互貸借の領収書を図書室にて発行している。

5. 研究支援のメリット

(1) 看護研究についての司書の知識が向上する。看護研究の一連の流れや研究手法（アセスメントツール等）を知ることが出来る。

(2) 最近の看護研究のトレンドを把握することで、看護だけでなく医療界全体の流れを見ることが出来る。

(3) 看護研究をきっかけに、図書室の存在を知ってもらい、結果として利用者増加に繋がる。

(4) 約1年間の研究に関わることにより、担当者の達成感が得られる。また、業務の質の向上に繋がる。

(5) 看護研究に関わることにより、多くの研究メンバーに図書室と司書の存在及び業務内容をアピールすることができ、利用者との距離が近くなる。

III. 臨床研修医への支援

1. 当院の臨床研修受入体制

当院は2007年9月に臨床研修病院(管理型)の指定を受けた。必修研修科目として1年次に内科を6ヶ月、救急3ヶ月を、2年次に地域医療1ヶ月となっている。診療科目の関係上、救急、産婦人科、精神科、呼吸器科、地域医療は協力型病院にて研修を行う。

2014年度現在の研修医は、2年目3名、1年目が2名。そのほか群馬大学からの協力型として1名が在籍している。

研修中は院内における各診療科症例検討会

ならびに勉強会に積極的に参加でき、他院合同カンファレンスや済生会初期研修医のための合同セミナーにも参加が可能となっている。

2. 図書室の臨床研修医支援

(1) 研修医用図書予算

1年に固定金額を研修医用として振り分け、その予算内で医学書や手技DVDを購入してもらう。1人あたりでの固定金額ではなく、研修医全体としており、購入図書は研修医同士の話し合いで決定し、購入した図書は研修医室へ配架して常時利用できるよう配慮している。

(2) 図書室レクチャー

図書室内で毎年ミニレクチャーを行っている。主に図書室の利用方法、当院で利用可能なデータベースの紹介、研修医用図書予算の使用方法を説明。検索講習は行っておらず、個別で図書室に来た際や、声をかけられたときに対応をしている。

(3) その他の支援

研修医室へ雑誌「レジデントノート」、医学界新聞研修医版、MedicalTribuneを配架している。図書室および各データベース利用NAVIを作成し配布。

2012年より、臨床サポートツール「Dyna Med+MEDLINEwithFullText」を導入。

定期的に研修医室の書庫整理およびPC内の電子ジャーナルリンクページの調整。

また、個人購入図書斡旋や、カンファレンスに使用する資料集めおよび画像作成の援助（スキャナー作業）を行っている。

2014年度には当院初となる留学生研修医（中国人）の受け入れがあり、中文版の図書室利用案内を作成した。

IV. 今後の展望ならびに課題

まず講義内容の見直しを図ること。2014年度は、医中誌 Web を導入した直後のため満足がいく案内が出来なかった。次年度は、キーワード検索だけでなく、著者名検索の方法や、シソーラス用語(統制語)、理論演算を使っての効率的な検索方法についても説明を行いたい。また、実際に事例を用いて検索することで、検索方法について理解を深めてもらえろと考え、演習を入れての講習を行いたい。

看護研究および臨床研修医担当者と連携を図り、各ニーズに合った支援体制を整えてい

きたい。

その他として看護研究や研修医ではなく全職員向け各種データベース講習会の開催も考えている。

最後に各支援をしていく上で、司書の知識、経験の研鑽が重要と考える。

参考文献

- 1) LibraryNAVI アーカイブ。[引用2014. 3.13]。 <http://librarynavi.seesaa.net/>